

氏名 中田和輝 法科大学院等の在籍年次 3年次

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながら書き込んでいってください。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：TNY国際法律事務所(バンコク)

滞在期間：3週間

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所の業務は日系企業のタイでの会社設立支援や法律文書のタイ語から日本語への翻訳業務が多かった。事務所の構成はボスの日本人弁護士1名、日本人若手弁護士1名、タイ人弁護士5名、会計・秘書2名、通訳1名という構成だった。勤務条件は9時出勤17時30分退社で残業はほとんどなかった。給料は支給されなかった。

インターンシップ生は法律文書の和訳・英訳及びタイの法律のリサーチを行った。最終週には自分で題材を決めて約5分間のプレゼンテーションを英語で行った。

3 宿舎及びその他の生活環境について

事務所から徒歩5分圏内のホテルに滞在した。費用は約3000円でした。費用が安いので日本のビジネスホテルほどは快適ではなかったが特にホテルでの生活に苦勞することはなかった。日本ほどではないが治安はよいと感じた。

4 出発に向けた準備等について

英単語と英文法の勉強を期末試験が終わってから1日2時間程度した。

5 インターンシップに要した費用

約20万円。内訳はホテル代6万円、食費4万円、観光・お土産10万円。

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

私の英語の学習は大学受験で終わっていて英語は読む・聞く・書く・話す全てが苦手でインターンシップ前は非常に憂鬱でした。しかし、実際にタイに行ってみたら日本人弁護士の先生にお世話をして頂いたので無事何とかなりました。業務や事務所外の生活やタイ人弁護士等とのコミュニケーションは英語でしたが拙い英語でも頑張って理解しようとしてもらったのでなんとかコミュニケーションをとることができました。また、タイは想像以上に発展していてタイでの生活で特に支障はありませんでした。英語が苦手な人や海外の法律事務所でのインターンシップは敷居が高いと思う人がいるかもしれませんが、タイ人は親切で頑張れば必ず上手くいくと思うので臆することなくチャレンジしてみてください。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

インターンシップの3週間だけで英語がペラペラになるということは正直ありません。ただ、インターンシップ前の英語に対するアレルギーが払拭されて、どうすれば英語で円滑にコミュニケーションできるようになるのか、弁護士として英語案件に携わるときにどのようにアプローチすればよいかの具体的なイメージが湧きました。また、グローバル化が進み、法曹人口もどんどん海外に進出していく昨今の情勢の中で自分も海外に進出するという経験を得ることができるので非常に有意義なインターンシップであると思います。